

視察研修レポート

平成27年11月18日（水）～ 20日（金）

- ① 帯広市 帯広市エリア・ファミリー構想
- ② 千歳市 学力向上／ICTを活用した授業改善



帯広市は、人口約16万8千人。中学校14校、小学校26校、幼稚園・保育所は56と、かなり大きな都市です。須恵町が、地域から小学校区を中心とした地域コミュニティを立ち上げたのに対し、ここでは中学校を中心に「帯広市エリア・ファミリー構想」として取り組んでこられました。

先進的な「東京都北区ファミリー構想」を参考に、連携推進のベースとして中

1 帯広市

中学校中心のコミュニティ

学校区をひとつのエリアとして考える構想です。キャッチフレーズは「子どもの「育ち」をつなぎ、「学び」をつなぐ」です。平成22年度に幼稚園や保育所、学校、教育委員会等の職員からなる幼保小中連携協議会を立ち上げ、一部エリアでスタートし、平成24年度には全エリアが始動しました。

帯広市との討議の中で、中学校を中心に立ち上げただけあって、教師の意識が高いと感じました。ベテランと若手の連携、授業改善質を高めるといった議論がなされていました。

中学2年生に家庭科の授業で幼稚園児の指導をさせたところ「優しくなって帰ってきた」との話にも感じ入りました。



千歳市は人口約9万6千人、中学校は9校、小学校は17校、自衛隊駐屯地と基地、空港があります。

自衛隊員9千人、その家族・OBを合すると2万4千人、これだけで須恵町の人口に近くなります。

ここでは、電子黒板、実物投影機、ブルーレイレコーダーを全小中学校の全普通教室に一台ずつ合計28

2 千歳市

充実したICT教育

7式が配備されています。総事業費約1億5400万円は、防衛省の交付金を活用しており、当町としてはうらやましい限りです。

あくまでもICTはツールとして使っていますが、「学習に対する興味や関心が高まった」と生徒の感想があるようです。

また、千歳科学技術大学と教育委員会の連携で、eラーニングシステムを開発・導入し、市内の全小中学校の児童生徒を対象として家庭学習でこれを活用できるように取り組んでいるとのことでした。

このeラーニングは当町でも検討する価値があると考えています。

（報告者 白水勝元委員）

視察研修レポート

平成27年10月28日（水）～ 30日（金）

- ① 新潟県長岡市 バイオガス発電センター
- ② 群馬県玉村町 スマートIC・道の駅玉村宿



1 長岡市

生ごみで発電

広大な敷地に建つこの施設は、PFI事業方式の生ごみバイオガス発電センターで、処理量は、全国の自治体では最大規模となっています。

ごみ処理は、自治体の大きな事業のひとつです。長岡市のバイオガス化と、須恵町が行っている固形燃料化の工程の違いはありますが、ともにごみを有効に利用し、ごみの減量化・資源化を推進しています。

この施設では、細菌の作用によってメタンガスの発生を促すことで生成されるバイオガスを燃料として、発電機を運転しています。

長岡市は、生ごみのバイオガス化によって電気を生み出し（1日約1000世帯分）年間410万kwの発電をしています。



生ごみを燃料としているため、ごみの出し方が細分化され（8種類）、各地区の環境美化委員（全体で約1700人）が、ごみステーションの巡回・点検などを実施しています。

また、各地区では当番制でごみの点検などを行っています。

このような組織ができあがっている面は、十分に勉強になりました。

2 玉村町

夢がふくらむIC

1日平均5700台の通勤や物流の車両で賑わう群馬県玉村町のスマートICを視察しました。

このICは、高崎市（8割）・玉村町（2割）が共同で建設しており、上下線の出入口は北関東自動車道で、東日本管内で3番目に多い利用本数です。

地理的に高崎市・前橋市に隣接する中山道第一の宿場町として過去発展しましたが、現在は人口約3万6800人の、のどかな農村の風景を有しています。

町には鉄道がなく、町の活性化の夢をのせて建築されたICと道の駅です。

地元の農産物・加工品などを生産する人と消費する人の交流を図り、災害時の緊急避難施設を目的として建設されました。



このICは、平成26年2月に開通し、同時に道の駅玉村宿を平成27年5月にオープンしました。高速道から一般道の道の駅に降り、買い物や食事をしたあとにまた高速道に戻る二段階方式が採用されていることが特徴です。

町では、産業・農業・人口の増加の糸口として、IC・道の駅の利用を大いに期待しているところです。

（報告者 三角栄重委員）

※PFI・・・公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法